



SILTECH

TRIPLE CROWN series
CROWN series

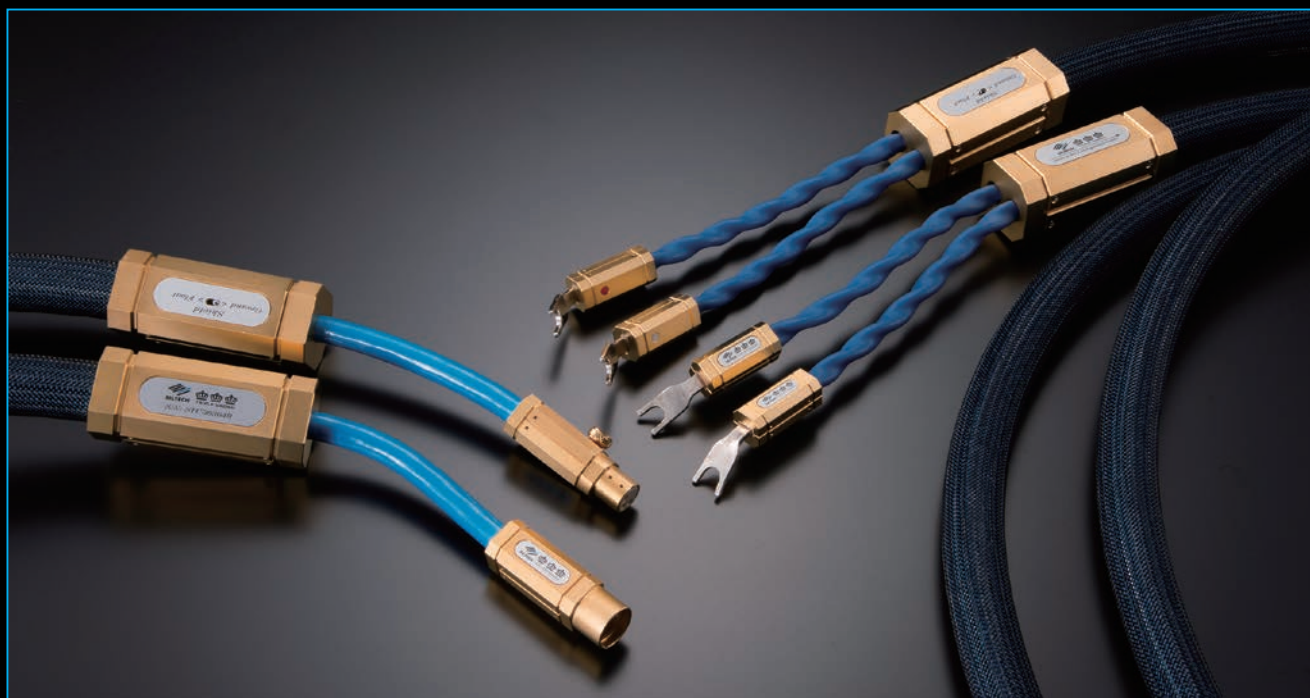


これまでにない音楽体験のために、シルテック。

デリケートな音楽信号を可能な限りピュアな状態で伝送する。
感動の音楽体験は、まずそこから始まります。

オランダ・シルテックは、導体や絶縁体の素材やコンストラクション、コネクタの材質など、オーディオ・ケーブルのあらゆる側面にわたって科学的アプローチを徹底し、他の追随を許さない高精度な信号伝送によって、かつて経験したことがない豊穡な音楽体験を世界のオーディオファイルにお届けしています。

繊細な音のニュアンス。ダイナミックな音の躍動。演奏者とともに、その場にいるかのような空気感。信号の純度を極限まで探求するシルテックのハイエンド・オーディオ・ケーブルを通じて、音楽のさまざまな表情を、つぶさにたどることができます。





音楽信号を限りなく正確に伝送するという使命感。

音楽的に正確であること一。
それが、1983年の設立時から変わらない、シルテックの使命です。
音楽は、ダイナミックレンジや音の質感、空間表現など、さまざまな要素から構成されていますが、使用するオーディオ機器がハイグレードになるほど、一つひとつの要素が聴感上際立ってきます。特に、繊細な音声信号を伝送するケーブルのクオリティーによって、音楽体験は大きく左右されることとなります。

1983年、オランダ・エルストに設立されたシルテックは、優れた測定機器など最新のテクノロジーと最先端の研究開発へ積極的に投資し、常に科学的な側面から、数値上、聴感上、いずれにおいても最良の成果を得るために、日々研鑽を続けてきました。

オーディオファイルに至上の音楽体験をお届けすべく、他の追随を許さない高精度なオーディオケーブルを創造することこそがシルテックの目標であり、すべてのエンジニアが、創業以来の使命感を持ち続けています。

完璧な信号伝送を追求するために、シルテックでは、製品開発から製造に至る全段階にわたって革新的で創造的なアプローチとエンジニアリングを貫き、熟練のクラフトマンシップをもとに、自社工場にて全製品をハンドクラフトしています。

シルテックという社名は、「Silver」と「Technology」を組み合わせただけです。

そこには、創業当初から純銀という導体材料の特質に着目してきたシルテックのこだわりがあります。

一般的な技術で銀素材を加工してケーブル製造する場合、素材にマイクロクラック（微細な亀裂）が生じて、耐久性や音質に悪影響を与えることがわかってきました。

そこでシルテックでは、このマイクロクラックに純金を流し込むことで、純銀、純金双方の特性を活かす独自の導体“G7”を開発、上位シリーズに採用して伝送性能の向上に寄与してきました。

さらに、その後の研究成果の蓄積と最新テクノロジーをふまえて、いっさいマイクロクラックのない完全な単結晶銀を開発、同社が開発してきた単結晶銀の第8世代を意味する“S8”と名づけ、最上位“Triple Crown”シリーズなどに採用しています。



“G7”の結晶断面



“S8”の結晶断面

ケーブルの端から端まで純銀の結晶体となることで低エネルギー損失、歪みの極小化を実現、音楽信号を最も純粋な形で伝送するこのテクノロジーは、世界屈指の冶金技術を持つシルテックならではのものです。そのブランド哲学の象徴と言えます。





単結晶銀の新世代“S8”を採用した最高峰シリーズ。

“トリプル・クラウン”は、導体のみならずコネクタ・ピンやYラグに至るまで、新世代の単結晶銀“S8”を採用し、新次元の音楽的ニュアンスとディティール、音の輪郭、驚くべき精度を獲得した、シルテックの最高峰シリーズです。

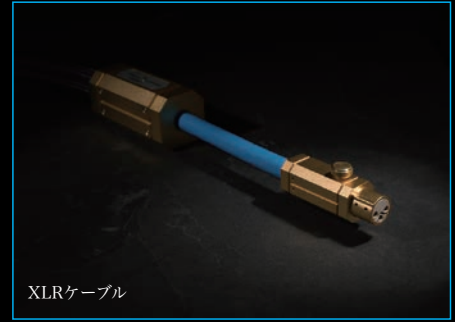
“トリプル・クラウン”では、単結晶銀の持つ可能性をさらに追求、これまでで最大の直径を持つ導体とすることによって、理想的な伝送性能を獲得。コネクタも含めた信号伝送経路全体を電気的にも構造的にも根本から見直し、ごくわずかな歪みや極小のエラーをも一掃しています。

シルテックでは、柔らかい絶縁材やシース素材を使用したケーブルより、大口徑で剛性の高いケーブルのほうが音楽再生にとって有利であることを説明。大口徑で堅牢でありながら適度な屈曲性を持つ実用的なケーブルという困難な課題を克服すべく、2年の歳月をかけて“エア・クレードル構造”というイノベーションを生み出し、この“トリプル・クラウン”に適用しています。

それは、大口徑の単結晶銀導体に、複雑な組成を持つテフロン素材を使用した超低密度絶縁体を組み合わせることで、屈曲した状態でも一貫した高い伝送性能を維持し、インダクタンス、抵抗、キャパシタンスを驚くほど低く抑える、シルテック独自の手法。たとえばRCAケーブルのキャパシタンスは、1mあたり18pF、XLRケーブルでは36pFと最少限まで抑えられています。

インターコネクト・ケーブル、スピーカー・ケーブル両端の大型ハウジングは“トリプル・クラウン”シリーズ独自の“フローティング・シールド・スイッチ”。入力側を“Ground”、出力側を“Float”とする、あるいは入力側・出力側いずれも“Ground”とするなど、ご使用のシステムに合わせて理想的なシールド接続の方法を切り替えていただけます。

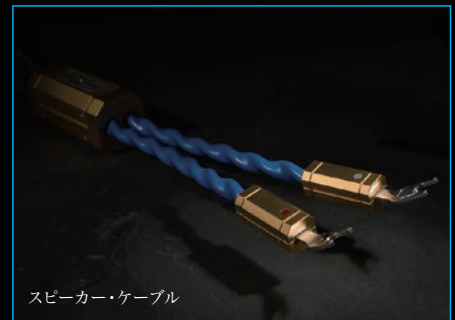
RCA、XLRのインターコネクト・ケーブルには、コネクタ部をネジで締め付けて固定するユニークな方式を採用。接続が抜けてしまうリスクを排除しています。



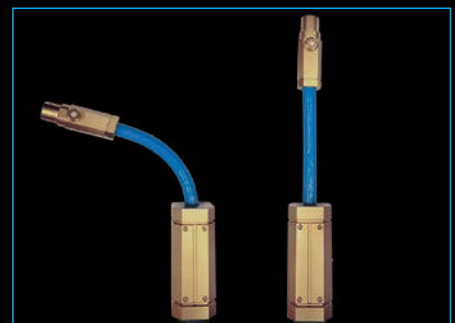
XLRケーブル



RCAケーブル



スピーカー・ケーブル



確実な接続を実現するコネクタ構造





“S8”、合金“G7”を使い分けた革新的シリーズ。

シルテックは、1983年、今日のシルテック製品の原型とも言える“Inevitable Link”を発表しました。その誕生35周年を記念して、2018年に登場したのが“クラウン”シリーズです。

シルテックが蓄積してきた知見とテクノロジーの粋を結集したこのシリーズは、“トリプル・クラウン”に比べて導体素材の量を抑えることで、伝送ロスや信号歪みを極限まで抑える“トリプル・クラウン”の性能を受け継ぎながら、扱いやすさを追求しています。

シリーズは、“トリプル・クラウン”で導入された単結晶銀“S8”を導体素材としたインターコネクト・ケーブル(RCA、XLR)、スピーカー・ケーブル、LANケーブル、そして高純度銀・金の合金である“G7”を採用したフォノ・ケーブル、USBケーブル、ジャンパー・ケーブルから構成されます。

また、XLR / RCA インターコネクト・ケーブルのピン、スピーカー・ケーブルとジャンパー・ケーブルのYラグには“G7”を採用、コネクタ部においても“トリプル・クラウン”の設計思想を受け継いでいます。

インターコネクト・ケーブル、スピーカー・ケーブルは、いずれも単結晶銀導体をカプトンとテフロンの絶縁体で被覆した上でシリコンによってさらに被覆。シリコン被覆内部を中空として空気絶縁を施し、さらにシールドングすることで外部ノイズや電磁ノイズの干渉を抑制しています。



XLRケーブル



RCAケーブル



フォノ・ケーブル



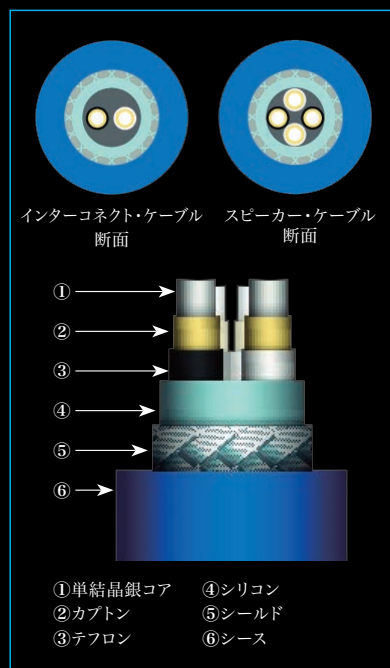
LANケーブル



USBケーブル



スピーカー・ケーブル





細部までこだわりを徹底するクラフトマンシップ。

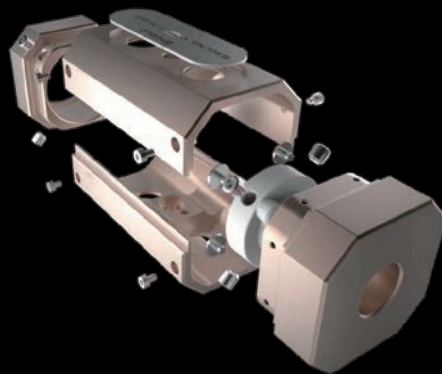
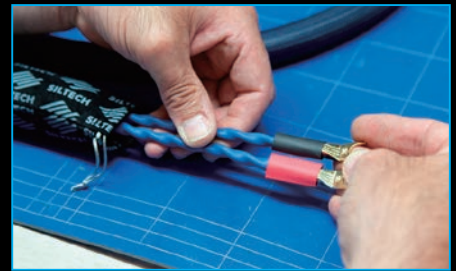
シルテックは、1983年、オランダの首都アムステルダム以南東に位置するエルストに設立され、オーディオ業界では初めてとなる高純度銀製のインターコネクト・ケーブル「Inevitable Link」を発表して一躍名を上げました。

1990年代初頭には、音楽愛好家でもあるエドウィン・ラインベルト氏が社を引継ぎ、より革新的なハイエンド・オーディオケーブルを開発・製造する世界的ブランドへと成長しています。

導体や絶縁材料など、ケーブルのあらゆる要素を研究し尽くしたシルテックの製品は、1本1本、入念な手作業によって組み上げられていますが、そのクラフトマンシップは、たとえばハンダ技術にまで徹底しています。

その素材にはシルテックが独自に開発した銀ハンダを使用、さらに、これも独自に開発したツールによって、すべてのケーブルにおいて加圧しながらハンダ付けする手法を導入しています。これにより、導体と接点間に余分な要素がなくなるため伝送損失が抑えられ、ケーブルの持つポテンシャルが最大限に引き出されることになります。

美しいアームセ湖のほとりに建つシルテックの工房からは、ケーブル製造に対する高い理念と妥協なきクラフトマンシップに裏打ちされた製品の数々が、日々世界に向けて送り出されています。



“トリプル・クラウン”シリーズのハウジング分解写真